

奥穂高岳南稜～残雪期アルパイン～

【報 告 者】F 谷

【日 時】2017 年 4 月 30 日

【天 候】晴れ、午後より飛騨側から強風が吹く

【参 加 者】F 谷

《コースタイム》

4 月 30 日

5:00 岳沢小屋 - 5:40 取付き - 9:50 第一トリコニー -15:00 南稜の頭 - 15:40 奥穂山頂
-17:00 奥穂高岳山荘 -18:10 涸沢ヒュッテ

5 月 1 日

6:00 涸沢ヒュッテ - 10:00 上高地

《 報 告 》

奥穂高岳南稜は、1912 年 8 月に英国人宣教師のウォルター・ウェストンと案内人の上條嘉門次が初登した超クラシックルート。山屋ならば一度はいつておきたいルートである。残雪期以外にも良く登られている。

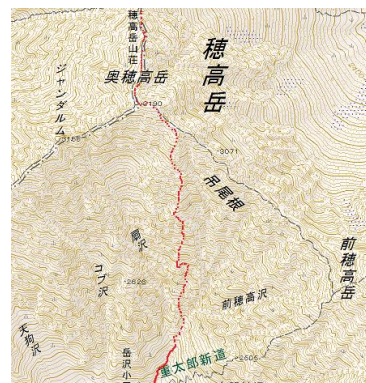
2015 年のゴールデンウィーク、関西の山仲間と共に岳沢ベースで前穂ダイレクトルンゼとコブ尾根を登り、その後に奥穂南稜を登る予定であったが、天候不良により中止し、宿題となっていた。

今年は、9 連休を取得できたことから、劔の小窓尾根の前にショートで登れるアルパインとして同ルートを選定。東京の山仲間と登る計画であったが、同行者が直前に痛風になってしまい、単独で登ることになった。

<1 日目>

3:30 起床。前日の小屋の受付をした際に、2 日前に降雪があつてから突破しているパーティーがないと聞いており（4 月 23 日は単独で記録あり）、不安を抱いたが、予定通り実施する事を決めて準備する。風が結構吹いており、少し収まるのを待つ。

5:00 に出発。先行には既に 2 パーティーが出発しており、後を追っかけての出発となった。昨晚の降雪の影響は、少ない。だが、例年に比べて雪は多い。



5:40 取付きに到着。小滝？の左側から登るルートもあるようだが、直登ルートを選択。先行のトレースを頂きながら、ダブルアックスで登高。雪は、まだ緩んでおらず、アックスが良く効く。ルンゼを詰めていくと、先行に追いつく。学生3人が休憩しており、お先にどうぞとの事から先に行かせてもらう。

記録によるとルンゼ上は、少し左側に行くのが正解のようであるが、先行パーティーが進んでいた右側のルートが正しいのではないかと自分も考えトレースを追いかける。

先行パーティーに追いつくと、ルートを間違えたかもしれないとの事。しかしながら、戻れない上、雪庇を突破するのはもっと難しいことからこのままいくとの事。

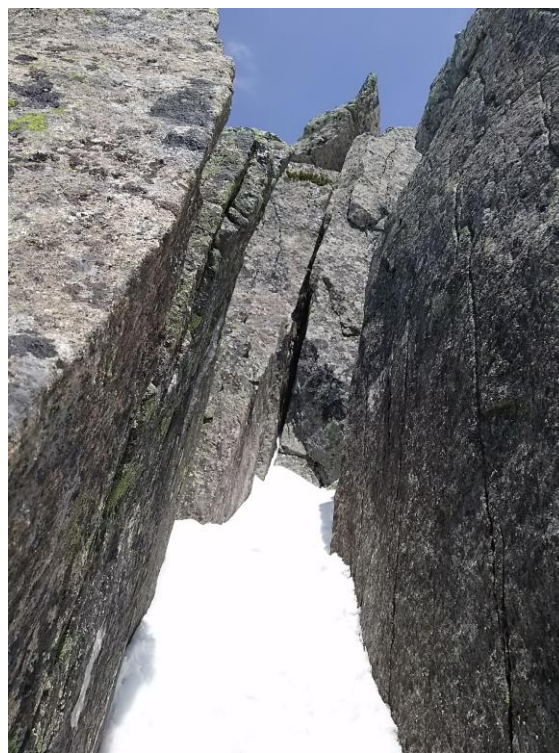
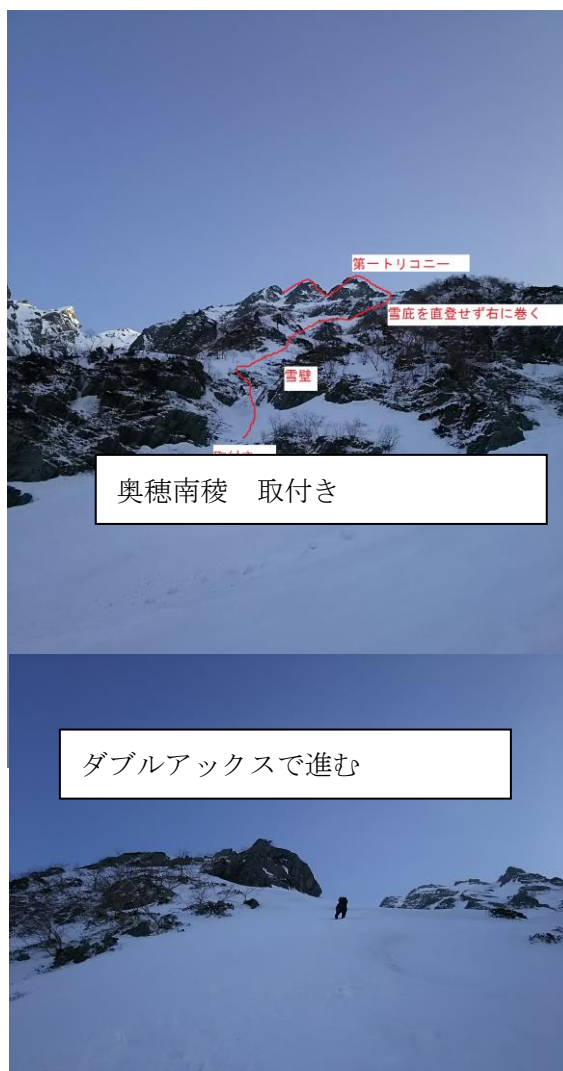
先行パーティーが這松交じりの雪壁を登る準備をしている内に、学生パーティーが追いついてくる。過去の記録からみて思いの外、悪いので、危険な所は、協力して一緒に上る事になり、メンバーに入れてもらう事となった(6人)。

這松で確保支点の作成を手伝う。先行パーティーがフィックスロープを設置。順番でフィックスを使い、モノリス岩まで到着。モノリス岩から第一トリコニーまでは、そう難しくない岩稜帯。先行パーティーと自分は、ザイルなしで。学生パーティーは、ザイルを使って登る。

第一トリコニーに到着。記録で見た岩の間を通過する場所を見つけ、ルート上に居ることを確認。

第一トリコニーを先行パーティーとノーザイルで登る。途中にワンポイント難しいところが出てきたので、ロープを出そうかと話し合っているうちに学生パーティーが追いついてくる。このまま、伸ばしてフィックスするので使ってくれとの事。

ありがたく使わせてもらう。ワンピッチだけだが、難しい。残置ハーケンにアイゼンを載



せて、体を伸ばして上部のガバを掴み一気に体を上げて突破。

抜けると、左右が切れている雪稜。確保されているので安心して進む。

学生パーティーは、全装を担いでいるが、突
てくる。大した体力である。

破し

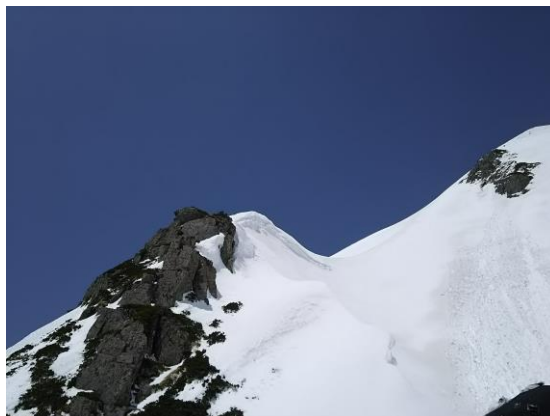
第一トリコニー (チムニーみたい)

12:30 第二トリコニーに向かって移動。メンバ
で時間がかかりすぎていることを認識し、速度を上げることを話し合う。

一 間

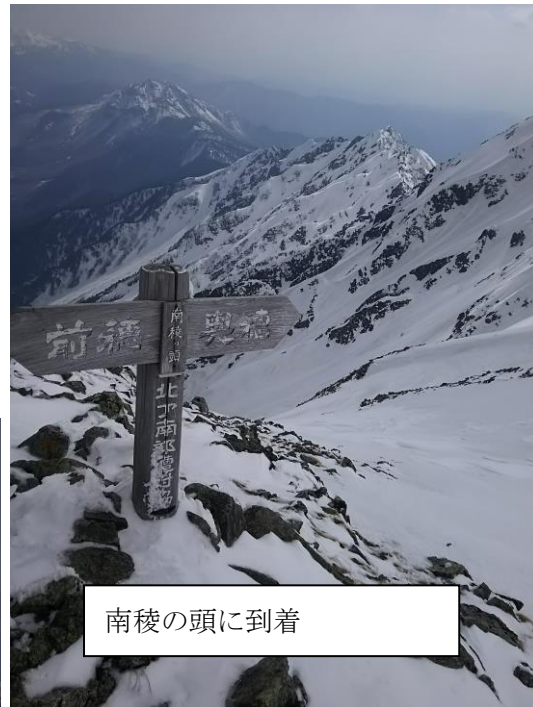
雪稜が続くが、昼を過ぎて雪が緩んできており、角度的に雪崩る事も懸念され、危ないところは、ロープを出していく事にする。

支点が少ないことも想定されることから、スノーバーを集めて、ロープを張る。時間がかかっても確実に前進する。



13:10 第3トリコニーに向かう。トレースを付けながら進んでいく。途中何度か雪崩が懸念されるとところがあったことから、ロープを出しながら進む。学生パーティーは、海外遠征前の練習山行との事で、練習になるとの事で進んでロープを張ってくれた。第3トリコニーを越えると、簡単な雪稜。連なって南陵の頭を目指して歩く。

15:00 奥穂南稜線の頭に到着。当初の計画では、午前中で終わるはずが、思いのほか時間がかかってしまった。ヤマテンの予報の通り、強風が吹いており寒い。奥穂山頂に向けて早々に移動を開始する。



15:40 奥穂山頂に到着。祠が新築されていた。ジャンダルムが綺麗に見えており、景色が綺麗であるが、寒いので写真もそこそこで下山する。

途中、2回の懸垂を交えて奥穂高岳山荘に向かう。

17:00 奥穂岳山荘に到着。下山遅れの報告を行う。その後、ザイデングラードを經由して涸沢ヒュッテに向かう。先行パーティーは、仕事があるので今日中に下山するとの事。学生パーティーは、自分と同じ涸沢ヒュッテで宿泊。

< 2日目 >

6:00 涸沢ヒュッテ出発。途中、雨に打たれながら上高地に下山する。

(感想)

今回の山行は、事情により単独行となってしまった。アルパインはルートファインディングや支点の相談などもあることから、単独よりは、やはり仲間とやったほうが良い事を再認識。始めていくルートなら尚更。

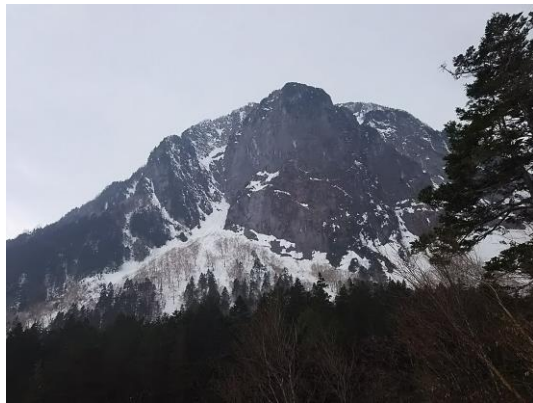
雪が多く、想定より大変であった。計画通り下山できなかったのは、猛省したい。ともあれ、良い経験となった。



青色：コブ尾根 赤色：奥穂南稜
岳沢山荘ブログより借用



北穂東稜 ゴジラの背



屏風岩 いつかは雲陵ルートを！